

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	4372801037
法人名	社会福祉法人 嘉悠会
事業所名	グループホーム 康寿苑
訪問調査日	平成 21年 3月 17日
評価確定日	平成 21年 3月 27日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと

**○項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**○記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**○用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4372801037
法人名	社会福祉法人 嘉悠会
事業所名	グループホーム 康寿苑
所在地	熊本県上益城郡嘉島町上六嘉2268番地 (電話) 096-234-8885

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3-15ステラ上通ビル4F		
訪問調査日	平成21年3月17日	評価確定日	平成21年3月27日

## 【情報提供票より】(平成21年 1月31日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成16年 6月25日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 7,5 人

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り 1階建ての 1階 ~ 階部分
------	--------------------------

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	10,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	210 円	昼食	315 円
	夕食	315 円	おやつ	含む
	または1日当たり		840 円	

## (4) 利用者の概要(1月7日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	76 歳	最高	89 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	西村病院・ひがし歯科医院・ひかりヶ丘医院
---------	----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成20年の7月に同じ町内から移転したため今回の訪問は、やっとホームとしての落ち着きが出始めた時期であった。以前は、本体法人の所有する施設の中の1つという感じだったが、新しいホームは、自然が感じられる環境で住宅街の中に移転したことによりホーム独自の地域とのつきあいが出来つつあり、地域に住んでいる人との関係が近くなったことが実感できている。近隣に協力病院があり、医療面や緊急時の協力体制が整っており、家族の安心に繋がっている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	居心地の良い環境作りを配慮して移転前から使用していた家具を持ってきている。昼食作りは、移転後は3食ともグループホームの台所で作るようになった。利用者本位の介護計画は、担当者によるアセスメントを行うことで介護計画を作成しているが、入居者や家族等の関わりはまだ薄いように思われる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、職員に話を聞きながら自己評価を作成した。その作業を通じて改善項目の発見に繋がったり、現在のサービスの課題に職員の意識が向けられるようになった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では入居者の状況や、日々の活動内容の報告を行い、委員からは、地域での関わり方等の意見や要望が出されている。ホームが地域とともに成長し、地域のまちづくりの一翼を担えるような会議運営を期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や家族が参加する行事の時に声をかけ、出た意見は管理者と職員が話し合って対応している。入居者の日々の様子を毎月簡単ではあるが封書にて近況報告を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームが、平成20年の7月に移転してから地域に住む住民との関係が近くなっていることが実感しているとの事である。地域で行われる行事への参加や、近くにある小学校の行事に招かれるなどを通して交流を積極的に取り組もうとしている。今後も介護予防教室などを通して認知症の啓発に努め、地域における福祉の拠点となることに期待したい。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は、「地域とのふれあい・出会いを大切に」となっておりホームの玄関に掲げている。移転を機に、地域密着型ホームとしての理念を作成したいと思っている。	○	入居者・職員・家族等が共有できる理念の作成を望みます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は、毎日の朝礼で唱和して理念を共有している。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃作業に職員が参加したり、地域の行事や小学校の運動会などの行事に参加し交流を図っている。餅つきなどの催しを実施し地域の人々にホームに来てもらう機会を作り、交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を通じて入居者へのサービスや職員の現在の状況と課題などが確認でき、ミーティングで話し合い少しづつ改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で入居者の状況や活動内容を報告をした後、メンバーからでた意見を活用して事業所のサービスの向上に繋げようとしている。移転して慌ただしかった為、会議の開催が充分に出来なかった。	○	運営推進会議を定期的で開催して、多くの話し合いや意見を出し合ってもらい、ホームの応援者を増やすことで今後のサービスの質の向上に繋がるのが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の担当者とは相談や助言等を得られる関係作りを築いており、サービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	入居者に変化があったときは家族に電話連絡を行い、変化が見あたらない場合でも毎月入居者の近況を一筆添えて、封書にて家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開いて意見を聞く機会を作ったり、面会時や行事参加時に意見を聞いている。意見が出た場合は、職員で話し合っって対応を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新人職員採用時は、ベテランの職員に1～2ヶ月の間業務を一緒に行い、入居者との関係作りに配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に一度行われる法人内の定期的な勉強会には参加できる職員は参加している。外部研修にも職責に応じて参加し、そこで学んだことを報告して共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で開かれている連絡会に参加して、そこでの勉強会や意見交換の時など同業者と交流する機会を作り、互いに相談し合いサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来訪してもらったり、職員の事前訪問により、徐々にホームと職員に馴染んで貰い入居に繋いでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のこれまでの経験や知識を活かせる支援に心がけ、職員は一緒におこなうことで入居者から学び寄り添うケアに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、入居者との会話や表情の観察などから思いや意向の把握を行うように心がけている。意思表示が困難な方は、家族から情報提供を受けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	現場の担当者がおおまかなプランをたてて、その後カンファレンスで話し合って最終的にケアマネが介護計画を作成している。家族等には年に一度の家族会の時に介護計画を説明し同意を得ている。	○	介護計画の作成にあたり、本人や家族等の希望や要望を反映できるように配慮することが期待されます。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しの期限が来たら実施するようにしているが、入居者に大きな変化が少ないため十分な見直しとまでは、行っていない。	○	定期的なモニタリングや記録の整備等で計画見直しが行われることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人の関連事業所と連携して、行事に参加し交流を図ったり、家族の状況に応じ病院受診を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族が希望するかかりつけ医の受診は状況に応じて同行している。協力病院受診後には家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルに該当する入居者がいないために、ホームとしての方針を文書化していない。次回の家族会の時に話し合う予定である。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の個人情報事務所に保管している。入居者のプライバシーを尊重した声かけや対応に努め、ミーティングで確認しあっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間、食事をする場所など、入居者の当日の希望や状態に合わせて対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自発的にされる方だけでなく、声かけによって参加を促すことで食事の準備や配膳などを手伝ってもらい、できるだけ職員と一緒に行動するよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴の曜日や時間は作成しているが、本人の希望に応じて臨機応変に対応をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	普段の生活の中で入居者に応じて食事の片付けや洗濯物干しなどの役割を持つような支援を行っている。レクリエーションや外出などの支援で気分転換が図れるよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるかぎり、一人ひとりの希望にそって散歩やドライブなどの支援を行うよう心がけている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかける弊害を理解しており、日中は居室や玄関に鍵はかけていない。出られる時は見守りや一緒に同行している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	7月の移転後、新しい事業所ではまだ避難訓練の実施ができていない。近々避難訓練を行う予定である。	○	定期的な避難訓練の実施と、災害時に地域の人々の協力を得られるような働きかけが期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態に応じた、量や調理方法を工夫して支援している。食事の摂取量のチェック表を作成して職員間で情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間のホールでは移転前の家具をもってきてそのまま使用することで、入居者にとってお気に入りのテーブル席やソファを使えるように配慮している。光はカーテンで調整し快適に過ごせるよう努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自宅で使っていた家具や仏壇を持ち込んだり、自宅が畳だった場合は居室に畳シートを敷いて対応するなど、以前の生活に配慮し、一人ひとりにあった居室づくりを支援している。		



# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
<b>I. 理念に基づく運営</b>	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
<b>V. サービスの成果に関する項目</b>	<b>13</b>
<b>合計</b>	<b>100</b>

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム康寿苑
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県上益城郡嘉島町
記入者名 (管理者)	佐藤 香織
記入日	平成 21 年 3 月 5 日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域とのふれあい・出会いをたいせつに」という項目を掲げ、地域密着型サービスということ意識しているが、再度検討したい。	○ 利用者・家族・地域の方々にもわかりやすく、また、全スタッフにも共通の取り組みとして浸透するよう、より具体的な項目も考えていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に1回のミーティングにて、管理者としての想いを伝える場、またスタッフの想いを聞く場として設けている。毎日の朝礼で唱和して共有意識を図っている。	○ 全スタッフの考えが、より共通のものになるよう勉強を継続する。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	来訪時、誰もが確認できるよう掲示しているが、浸透するには至っていない。もっと手に取りやすい冊子等にして玄関に配置を考慮する必要有。	○ 広報誌作成(地域へ向けた)時に、理念を載せると共に、運営推進会議や地域参加の行事等で、繰り返し訴えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	行事等への呼びかけや参加もあったり、また相談等も日頃かららせて頂いている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校からは、行事毎に招待され、参加させて頂いている。また、地域の清掃活動等にも積極的に参加している。	○ 地域の行事、会合等にも利用者と一緒に積極的に参加していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	老人会へ参加をし、スタッフが持っている知識や技術を提供している。小・中学校のワークキャンプの受け入れを実施している。	○	今後、地元婦人会との交流を図る予定。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を受けることにより、自分たちの事業所は何が良く、何が足りないか振り返ることができ、見直しができています。	○	全スタッフ共に振り返りを行い、常に見直しを行っていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況、活動内容の報告以外にも、実際に行事に参加して頂いたりしている。回を重ねる毎に多くの意見やアイデアを頂き、サービスの向上に確実に繋がってきている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者に対する相談や助言等を頂くことができる関係ではある。	○	町民の皆様にも社会資源として還元できるような事業所であるよう、より良い関係作りを深めていく。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は研修会参加にて学ぶ機会があるが、他のスタッフへの教育ができておらず、理解はできていないと思われる。	○	今後、必要になってくる利用者がいらっしゃる為、早急に勉強会の開催を行い、全スタッフで理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会や月1回のミーティングにて確認し、また関連記事等の回覧にて全スタッフが意識して防止の徹底に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、十分な説明を行い、理解して頂けている。疑問点や不安をいただかれていそうな場合に関しては、納得して頂けるまで繰り返し説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉・態度から想いを汲み取るよう全スタッフで努めている。意見が出された場合は、早急にスタッフに伝え、できるだけ叶えられるよう努力し、苦情に関しては、改善に向けて努力している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には必ず近況を報告し、また特変があった場合も、その都度電話連絡・報告を行っている。遠方在住の家族には、定期的な電話連絡や、毎月の請求書送付の際に、状況を一筆書いて同封している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	建物内(玄関)に意見箱を設置している。面会や行事参加時に、常に声を掛けている。出された意見・苦情等は、早急にスタッフへ伝え、改善に向けて努力をしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気作りを目指している。定期的にアンケートを配布し、普段なかなか言えない事や個人の考え等を把握し、反映できるように努めている。	○ 定期的な個人面談を実施することで、意見や提案を出しやすい機会を作り、反映させていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況変化に合わせた調整ができている。スタッフの急な休みの時は、他部署からの応援体制ができている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合	離職が多くスタッフの交代が多いのが現実である。新しいスタッフが入った場合、ベテランのスタッフを指導員に付け、1～2ヵ月かけて一緒に業務にあたることで、利用者にて	○ 定期的、また必要時に個別面談を行い、スタッフの意見・要望・悩み等を聞いていくことで、長く働くことができる職場作りを目指していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の定期的な勉強会(2ヶ月に1回)には、積極的に参加できている。また、外部研修には交替で参加している。また、資格取得を目指すよう声掛けをしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同郡内の定期的な連絡会があり、勉強会や意見交換に参加し、サービスの質の向上につなげている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	きちんとした休憩時間が確保できていない。	○ 10分でも良いから、利用者から離れた場所での休憩時間を確保することで、ストレスの軽減を図り、リフレッシュした気持ちで利用者に関わることができるように努めていきたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	賞与時の人事考課やその後の面談で、個々の意見を聞く場もあり、また反映もされている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人自身からだけでなく、その家族や関係者からも聴き取りをし、情報収集に努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前に見学をしていただき、またスタッフの事前訪問等で家族の想いを聞き出し、できる限り受けとめるように努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた場合、グループホームだけでなく、法人全体（他事業所も含）で、その方が求める、その方に合った支援を考えている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用は実施していないが、事前の見学、スタッフの事前訪問を行い、十分な説明、又関係作りに努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	対話を大事にして、寄り添った時間作りを心掛けている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の介護状況を把握し、想いを傾聴し、受け止める事に努めると共に、またスタッフの考え、想いも伝え、相互協力関係を築く努力をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	いつでも面会できる雰囲気を作り、面会時には居室でゆっくり過ごされるように努めている。季節の行事には早めに案内し、ご家族の参加を呼びかけ、できるだけ一緒に過ごして頂いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等では会いに来て頂くこともあるが、事業所から出て行くことが不足している。	○	本人がこれまでの人生において関係を築いてこられた人・場所を大事にする為、常にアセスメントの振り返りを行っていく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合える関係づくりを支援している	スタッフがまず軸となり、話題提供や活動参加の雰囲気を作り、自然とその場に入ってもらって、そこから利用者間の関係作りができるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も、ご家族がスタッフや利用者に会いに来訪されることがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	寄り添い、傾聴する事で、一人ひとりの想いを汲み取るように努めている。困難な場合は、日々の言動や表情から感じ取ることにも努め、また家族と相談しながら検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報を収集し、把握できるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムは把握することができている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の想いや要望を反映できるように介護計画を作成しているが、十分とは言えない。	○	本人・家族の想いや要望が遠慮なく言える雰囲気作りを目指すと共に、密な関係作りにも努め、それぞれの意見が反映できる介護計画を作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しを確実に実施するよう努めているが、十分にはできていない。	○	期間終了の際、状態に変化が生じた場合は、確実な見直しを図り、新たな計画を作成していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに、日々の生活の様子、身体的及び精神的状況、本人の言葉等の記録を行っているが、介護計画の見直しには十分には活かされていない。	○	介護計画に沿った記録の記入方法へ移行・改善していきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その方のその時の状況、又ご家族の状況に応じて、法人内の他部署と連携して、本当に必要なサービスができるように努めている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事や運営推進会議に一部の方に参加参加して頂けているが、ボランティア募集や警察・消防等の社会資源との協働にまでは到っていない。	○	今後、広報誌作成によりボランティアを募ったり、運営推進会議に警察・消防・文化・教育機関の方に参加依頼をしていき、関係作りに努めていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	気分転換を兼ねて、同法人のデイサービスや特養ホームでの行事等に参加をすることで、他利用者との交流の場となっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在ほとんど関わりを持っていない。	○	今後、運営推進会議に地域包括支援センターの方にも参加・協力を仰ぎ、関係作りに努めていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者の方が同グループの協力病院を希望されており、連携が取れている。それ以外の病院においても、家族と相談、受診の付き添いをしながら関係作りに努めている。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要時にご家族に相談し、スタッフも同行し、受診して頂いている。専門医との信頼関係ができており、いつでも気軽に相談ができています。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同法人の特養の看護師及び同グループの病院看護師に、日頃から相談し、アドバイスをもらいながら支援している。医療機関との協力体制ができています。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	日頃から担当医・看護師と連携を図り、関係作りに努め、常に情報交換や相談を行い、利用者が安心して入院生活を送れるよう、また早期退院ができるように努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族・本人の希望を尊重しながら、担当医・家族・スタッフと話し合いを繰り返し、方針を共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	これまでの経験を活かし、常に話し合い、方向性を模索しているが、具体的な内容までには到っていない。	○	具体的な内容のマニュアル化も考えていく。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人に関わるケア関係者の話し合いや情報交換を行い、安心して暮らして頂けるよう支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に利用者の尊厳を守り、声掛けや対応に努めている。ミーティングにおいて、定期的に意見交換や対応の見直しを行い、スタッフへの再確認を行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	無理強いをせず、一人ひとりに合わせた声掛けを行っている。スタッフの意見を押し付けるような事はせず、選択肢の中から選んで頂く等の支援に努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間は、本人の希望・状態に合わせて臨機応変の対応を行っている。食事に関しても、本人の希望を優先し、食べたい時間に食べたい場所で摂って頂いている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	基本的にその日の服装は本人に選んで頂いている。支援が必要な方は、スタッフと一緒に選んで頂いている。理容・美容に関しては行きつけの所に行かれる方と近所の店から訪問して頂く方がおられる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる限り一緒に買い出しに行き、希望のメニューを提供している。準備・配膳も声掛けで手伝って頂き、片付けに関しては定着している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて定期的に準備するよう支援している	行事・誕生日会では利用者の希望を重視し、メニューを提供し喜んで頂いている。食欲不振の時には、家族・担当医と相談し、好みの物を提供し、栄養補給に努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人毎に排泄チェック表を作成・記入していくことでパターンの把握に努め、それに合ったトイレ誘導を行っている。便秘対策として、水分補給・運動・食物繊維・乳製品を提供している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	無理強いはず、本人が楽しんで入って頂けるように努めている。湯温も本人の希望に合わせて、ゆっくり入って頂けている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中も、本人の状態に合わせて、昼寝をして頂いている。夜間不眠の時は、スタッフと談話したり、軽食やお茶を飲んで安心して頂けるように努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常の中での食事の片付け、洗濯物干しやたたみ等の役割を持って生活が送れる様支援している。併設のかしまスマイル利用者との合同活動・レク・外出・行事等でも気分転換を図っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名の方が居室に持参され、他の方も必要な方は事務所の金庫でお預かりしており、外出等でそれぞれ好みの物を購入されておられる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は近所まで散歩に出掛けたり、近所の行事に参加したり、希望により買い出しやドライブに出掛けている。また、同法人のデイサービスや特養での行事にも参加している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに	誕生日に外食を希望される方は、個別で出掛けている。	○	今後、家族やボランティア参加の外出を企画・実行したい。普段行けない所でも、利用者の希望を重視し、外出の支援をしていきたい。家族参加の旅行も是非実現させた

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、家族に電話をしたり、手紙を読んだり、代筆の支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関は施錠せず、いつでも気軽に出入りできるように心掛けている。全スタッフで、気軽に訪問できる雰囲気作りに努め、訪問時は居室でゆっくり過ごして頂けるように支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒リスクが高い方もおられるが、その旨家族に説明し、理解を頂いた上で、身体拘束は行っていない。定期的にスタッフ間で勉強することで意識を高めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠は行っていない。夜間22時～翌朝6時までは施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中・夜間を通して、気配り・目配りに努め、一人ひとりの所在を把握し、安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に合わせ、注意の必要な物品の管理方法をスタッフ間で話し合い、危険防止に努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会・ミーティングで確認し、全スタッフが対応の把握に努めている。事故が発生した場合も、小さなことに対しても報告書を作成し、事故の原因・予防策を話し合い、情報を共有し、防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に勉強会において救急法の訓練を実施している。応急手当においても、勉強会や看護師から随時指導を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	7月に移転以降、避難訓練の実施ができていない。	○	定期的に、地域の方と消防団の協力を得て避難訓練の実施をしていく必要がある。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時及び随時に起こり得るリスクについて説明を行い、承諾を頂いている。転倒リスクが高い利用者においては、家族に説明し、理解を頂いた上で、身体拘束は行っていない。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタル・食事・排泄チェックの記録を徹底し、状態変化の早期発見に努めている。異変時は、速やかに協力病院に連絡・相談・受診・指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の処方箋を入れ、常に確認できるように努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排泄チェックを行い、パターンを把握すると共に、水分補給・運動・乳製品、食物繊維を提供し、取り組んでいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援	起床時と毎食後に必ず声掛けを行い、徹底した口腔ケアの支援ができています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事量・食事形態の提供を行っている。全スタッフで食事摂取量のチェック表を記入し、情報の共有に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	利用者・スタッフ全員がインフルエンザの予防接種を受けている。また外出後の手洗い・うがいの徹底に努めている。定期的に感染症に対する勉強会を行い、予防や対応の準備に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、布巾・まな板・調理器具の消毒を実施している。冷蔵庫の食材チェックを毎日実施し、買い出しはこまめに行くことで新鮮な食材の確保に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関、その周辺には、季節の花々や観葉植物を置き、飾ることで親しみやすい雰囲気作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにおいては、移転前と家具は変えず、使い慣れたものをそのまま持ってきて使用している為、それぞれのお気に入りのテーブル席、ソファが確保でき、混乱等見られずスムーズに新しい環境・空間に慣れることができておられた。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれのソファであったり、居室であったり、思い思いの自分の場所を確保されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた家で使われていた家具を持参して頂き、居心地の良い空間を作るよう心掛けている。自宅が畳みだった方には、居室に畳を敷いて対応している。仏壇を持参しておられる方もいらっしゃる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期・随時・清掃時にこまめに換気を行っている。温度計を設置し、利用者の状況に応じて、室温調整及び加湿・除湿にも努めている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	随所、必要な場所に手すり、安全バーを設置している。ベッドには移動バーを取り付け、立ち上がりがスムーズにできるようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室入り口には、本人の写真と名前を貼ったボードを設置している。歩行困難な方や居室とトイレの距離が遠い方に関しては、夜間のみポータブルトイレを使用されている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関・庭にプランターを置いて季節の花々を植え楽しんで頂いている。また、畑も作り、季節の野菜を収穫し、調理している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

手足の守り神として2月の例祭が有名な足手荒神の隣に位置し、近くには小学校や幼稚園、理・美容室があり、恵まれた環境にあります。小規模多機能型居宅介護事業所「かしまスマイル」との併設施設で、利用者間の交流や合同行事・地域の方の訪問が多々あります。また、近隣（車で1分）に協力病院、特養があり、緊急時の協力体制が整っています。

入居者・スタッフ共に個性が豊かで、入居者・家族・スタッフ間の馴染みの関係・信頼関係ができており、常に笑いの絶えない明るいグループホームです。毎日の食事（3食）は、ケアを行う馴染みのスタッフと利用者が一緒に、食材の買出しに出かけ、好みのメニューを聞き出し、調理しています。誕生会や行事では、誕生日の方の希望に沿って、好みの巻き寿司、いなり寿司、ちらし寿司等のご馳走を作る他、外食にも出かけています。

今後も、入居者・家族・スタッフ・地域が一丸となり、たくさんの思い出を作り、1日1日を大切に、感謝の気持ちを忘れず、共に支えあう関係作りに努めていきます。